

直近の家庭用牛乳乳製品の販売状況の推移を毎週発信してまいります。

今回は4月28日週報となります

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《～需要の見通しは不透明～GWに向けて積極的な需要拡大を～》

- ・4/11週の牛乳類の家庭内消費については、販売個数前週差で牛乳は微減、その他は微増となり、牛乳類全体では横ばいとなった。牛乳の販売個数をコロナ禍前の2019年度と比較すると100.7%となり、コロナ禍前よりも増加している。
- ・ヨーグルト類については、前週と比較しドリンクタイプと個食は減少、大容量は微増となった。全体を通して低調な推移となっているが、比較的低価格である大容量が増加傾向となっている。
- ・20年ぶりとなる円安は諸所に影響を及ぼしており、食料品や電気料金は更に値上げとなる可能性がある。コロナ禍からの経済回復にも遅れが生じる恐れがあり、牛乳・乳製品の家庭内需要への影響も懸念される。一方で政府は生活必需品の物価高騰に対応した緊急対策の協議やイベント等の割引支援の実施を検討しており、今後の需要喚起が期待される。
- ・処理不可能乳の発生が懸念されているGWが間近に迫っているなか、今後の消費動向はより不透明な状況になると考えられ、関係者全体で家庭内需要の底上げに取り組む必要がある。

【牛乳類の販売速報(推定値)：インテージSRI+】

(1)直近動向(表①参照)

・直近(4/11週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳:同98.4%、成分調整牛乳:同99.6%、加工乳:同103.4%、乳飲料:同97.7%。

牛乳類トータルでは同98.5%

※参考:2020年度比は、牛乳:87.3%、成分調整牛乳:87.3%、加工乳:81.3%、乳飲料:81.6%(牛乳類トータル:86.5%)

※参考:2019年度比(コロナ禍前)の牛乳販売個数は100.7%。

・販売単価は、牛乳:189.9円、成分調整牛乳:173.4円、加工乳:190.9円、乳飲料:149.9円。

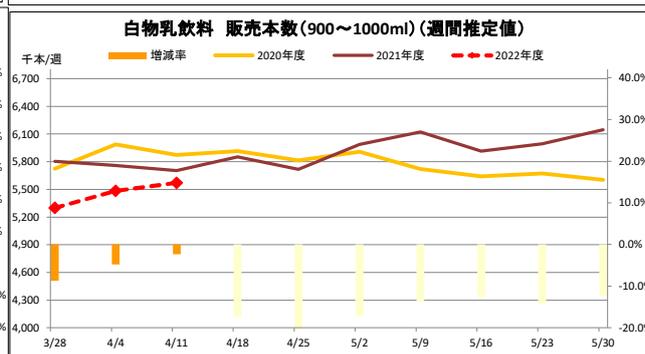
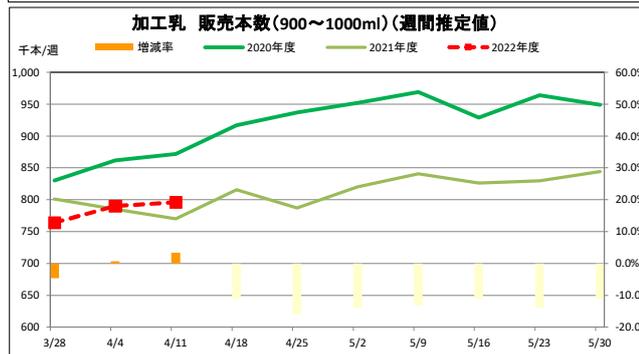
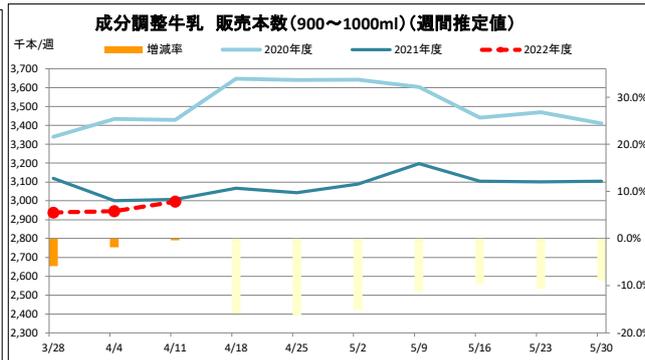
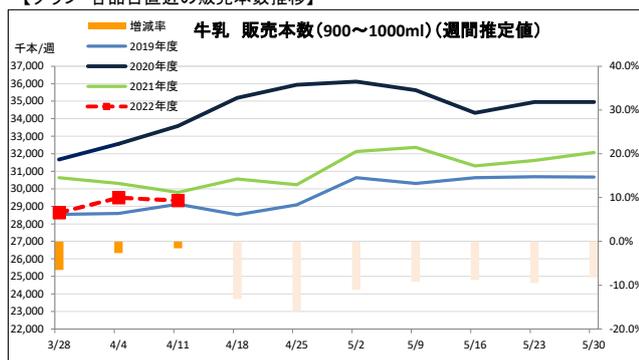
※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(単位:千個、円)

品目	区分	2.21-	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-
トータル	販売個数	37,703	36,769	37,426	37,065	37,487	37,641	38,712	38,688
	販売個数前年比	94.8	95.0	96.2	95.9	94.8	93.2	97.1	98.5
	販売単価	182.5	182.7	182.5	182.7	182.7	182.7	182.9	182.9
牛乳	販売個数	28,737	27,874	28,430	28,242	28,619	28,639	29,492	29,325
	販売個数前年比	95.6	95.3	96.3	96.5	94.8	93.5	97.3	98.4
	販売単価	189.2	189.6	189.3	189.4	189.3	189.6	189.7	189.9
成分調整牛乳	販売個数	2,896	2,865	2,857	2,821	2,837	2,938	2,945	2,996
	販売個数前年比	96.0	96.8	96.1	96.0	95.1	94.2	98.1	99.6
	販売単価	174.2	173.5	174.0	173.2	173.9	172.4	173.8	173.4
加工乳	販売個数	761	751	763	755	754	764	790	796
	販売個数前年比	98.3	99.6	100.8	100.1	96.8	95.3	100.6	103.4
	販売単価	190.6	190.3	190.0	190.6	191.4	190.1	191.0	190.9
乳飲料	販売個数	5,309	5,278	5,376	5,248	5,277	5,300	5,485	5,571
	販売個数前年比	89.8	92.3	95.3	92.5	94.2	91.3	95.2	97.7
	販売単価	150.1	150.0	150.1	150.3	150.2	150.2	150.0	149.9

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の動向(表②参照)

直近(4/11週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)前週(4/11週)よりもドリンクタイプ、個食タイプの販売個数は減少、大容量タイプは減少した。新年度に入ってもドリンクは90%を割る減少率となっている。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	2.21-	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-
ドリンクタイプ	↓	↔	↓	↓	↓	↓	↓	↓
個食タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔
大容量タイプ	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔	↔



:前年比90%未満



:前年比105%以上110%未満



:前年比90%以上100%未満



:前年比110%以上120%未満



:前年比100%以上105%未満



:前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

○Jミルク特設サイト「需給安定に向けてー2022春」

Jミルクでは、今春の生乳需給に関する情報をまとめた特設ページを開設。各団体や企業の取り組み内容や需給関連のQ&A、「給食のない日の牛乳」について学校関係者向けリーフレットなどの情報を提供しています。こうした情報も参照の上、需給安定へのご理解とご協力をお願いします。

<https://www.j-milk.jp/news/supplystable2022spring.html>

※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」